

お口爽やかですか

テーマ フッ化物洗口を和歌山県に学ぶ

格差是正を目指し、和歌山県議会で フッ化物洗口によるむし歯予防を決議

12歳時の1人当たりのむし歯の本数は都道府県の中では11位の和歌山県議会が、今年9月28日、むし歯予防に関する議決をしました。

が日本一少ない新潟県の成果に学ぶものです。

これは「小学校等の集団において週1回1分間のフッ化物洗口」を進め、むし歯

が日本一少ない新潟県の成果に学ぶものです。このように格差是正のために真剣に取り組んでいる和歌山県に、43位の北海道は学ばべきではなからうか。以下、和歌山県議会決議の全文を紹介します。

小学校などにおけるフッ化物洗口の 集団実施を推進する決議全文

生涯にわたり自分の歯で食事をし、会話を楽しむことは、豊かな生活を送るために大切な役割を果たすものである。

また、歯の健康を保つことが口腔機能の低下を防止し、ひいては全身の健康にも関連するものとして、歯の喪失予防の重要性が示されつつある。

原因の半分は、むし歯によるものであり、その罹患率は他の疾病に類を見ないほど高く、また初期を除いて不可逆的疾患である。

歯は、生え始めの数年間が最もむし歯になりやすく、永久歯が全て生えそろう中学生頃までが歯にとって重要な時期にもかかわらず、学童期は乳歯と永久歯が混在しているため、口腔のケ

我が国における歯の喪失

アが困難である。

一方、むし歯予防については、厚生労働省による平成17年歯科疾患実態調査の結果で「毎日歯を磨く」者が96%を超えるなど、歯みがきが一般的となっている。

今後は、WHO（世界保健機関）や厚生労働省などにおいて、むし歯予防の有効性が認められているフッ化物を応用した取り組みを推進する必要がある。

このような中、県内でいち早く学校におけるフッ化物洗口の集団実施に取り組んだ旧金屋町内の小・中学生のむし歯罹患率及び1人平均のむし歯数は、他に比べ極めて少なく、効果が現れている。

県においては、平成16年度からフッ化物洗口の集

団実施を推進しており、現在80を超える小学校等でも取り組まれているところであるが、現在、小学校で最も取り組みが進んでいるものの、その普及は25%程度にとどまっている。県内全ての小学校などへの普及に向け、今後、より一層の拡大が望まれる。

和歌山県議会としては、小学校などにおけるフッ化物洗口の集団実施を推進し、児童・生徒などの歯の健康を保つとともに、フッ化物洗口という保健行動を通じて、子どもたちが自らの健康に興味を持ち、理解することにより、生涯にわたる健康づくりの基礎となることを期するものである。

以上、決議する。和歌山県議会